

区分 農業A (生産システム)

(サブタイトル) 農業経営者向けMBAミニプログラム「鋭農経営塾」

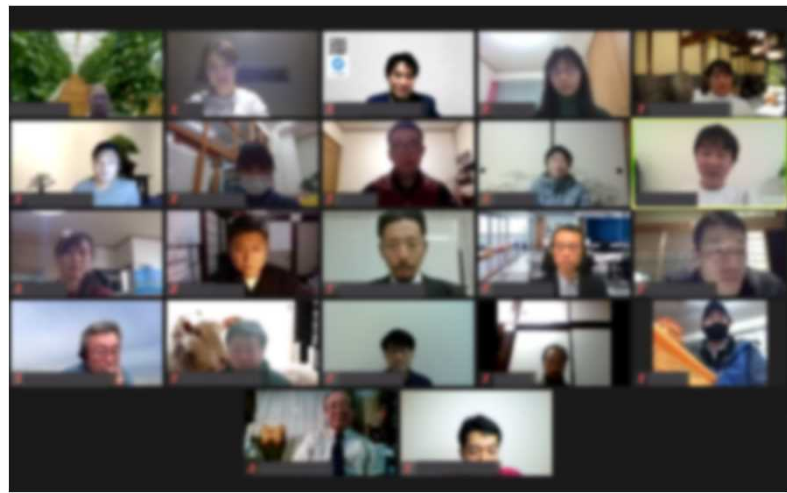
(開発した訓練の特徴等)

- 【対象】これからの日本農業を担う農業経営者および経営幹部候補者
【コンテンツの特徴】
- ✓ 忙しい農業経営者も全国から参加しやすいオンライン講義
 - ✓ ワークやディスカッションを多分に取り入れた「実践型/課題解決型」講義
 - ✓ 企業型経営体において重要な「組織マネジメント」、「AI・IoT・データ活用」、「生産工程管理」の知識習得にフォーカス。
 - ✓ 人材の育成や新規事業開発など、実際に存在する法人を対象にした「リアルケーススタディ」で実践に役立つ考え方を身につける。

(受講のメリット)

- 生産現場での課題や人材育成、マーケティング等様々な課題に対して、どんな課題解決のアプローチが最適か、思考力が身につく。
- 同志となる全国の農業経営者が集まり学ぶ場により、それぞれの多様な事例を相互に学べるほか、ネットワーク形成につながる。

(実施した時の環境等)



訓練の内容：農業経営者向けオンライン講義
募集期間：2020年5月1日～5月29日
応募人数：32人

受講人数：20人(選考により受講者を決定)
受講日時：2020年7月4日～2021年2月20日
期間中 全24回開催
第1週 & 第1週・土曜日 13:00～18:00および
第2週 & 第4週・水曜日 18:00～19:30

受講料：無料
社会人受講生のための配慮：欠席者へも全編教材共有

区分 農業A (生産システム)

(訓練を実施する上で注意する点)

- ✓ 各分野の実務的講師を確保する。(学術 実践)
- ✓ オンラインと実地演習の組み合わせ
受講生同士のコミュニケーションの円滑化を推進するために、実地での集合演習を初回・中間・最終で組み合わせることを推奨する。
- ✓ 出席率向上施策として、実地演習等で、受講生間のコミュニティづくり、受講生の学びをサポートするメンター配置、または受講メンバーをクラス分けし、級長等の役割を各自に振ることで、受講メンバーの主体的な学びを促進する仕掛けなどを検討することを推奨する。
- ✓ 自社の事業計画策定ゼミを、プログラム序盤から設けるなど、受講生のステータスやニーズに応じてカリキュラムを調整する。
- ✓ 会計科目など、受講者間で知識の差がある科目に関しては、講義前に参考図書を事前に示すなどして、予習を課すことを推奨する。



(受講者等からの声)・自分のキャリアの中で大変大きな機会となった。全国の仲間と知り合えたことは宝。
 ・忙しいからとそこそこの人を採用するのではなく、一緒に働く人を厳選するなど、人事戦略策定に非常に役立った。
 ・自組織の経営と組織マネジメントの全てに関わる「ミッション・ビジョン・バリュー(MVV)」の見直しができ、実践に活かせた。
 ・(農業歴24年、先代から農業法人を引き継いだ経営者の方)農業に限らない一般的な経営について、これまで勉強する機会がなかったが、環境の変化や自社の事業の変化に対応できる考え方を学ぶ貴重な機会となった。
 ・実践に役立った科目ランキング： マーケティング、 事業計画策定、 スマート農業、 リアルケーススタディ

(受託事業者) 株式会社マイファーム

(詳細・問い合わせ先)
 厚生労働省HP: URL https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/program_development_text.html#agriculture
 厚生労働省人材開発統括官付参事官室(人材開発政策担当)政策企画室事業係 03 - 5253 - 1111(内線5648)